

電動可変焦点ドーム型同軸カメラ

CCE3CDZ1

屋外用

保護等級
IP67 相当

電動可変焦点バレット型同軸カメラ

CCE3CBZ1

屋外用

保護等級
IP67 相当

このたびは本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本書は基本的な設定のみ記載しております。詳しい内容については、
巻末の QR コードより詳細設定ガイドをご覧ください。

(注) この製品は犯罪防止システム品ではありません。空き巣、強盗、変質者の侵入等の犯罪による
損失、損傷等が発生しても、当社は一切責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

安全上のご注意 お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを
説明しています。本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

警告

誤った取り扱いをすると、死亡や重傷を負うなど
重大な結果に結びつく可能性があるもの

注意

誤った取り扱いをすると、傷害または家屋・家財などの
損害に結びつく可能性があるもの

	一般的な 注意事項		一般的な 禁止事項		水ぬれ 禁止		機器の 分解禁止		接触禁止		ぬれ手 禁止		指示を 守る
--	--------------	--	--------------	--	-----------	--	-------------	--	------	--	-----------	--	-----------

警告

異常があるときは、すぐに
使用をやめる
次のような異常時は、放置せずに電源を
切り、販売店・工事に連絡してください。
◇煙がでる、においがする
◇内部に水や物が入った
◇画面が映らない
◇接続ケーブルや外部が劣化
火災、感電、けが、故障の原因となります。

警告

指定以外の機器・アクセサ
リーは使用しない
指定品を確かめ、使用機器の取扱説明書もよく
お読みください。
性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原
因となります。

警告

次の場所に設置しない
◇強度の不足する場所、
不安定な場所
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります
◇人や車両の通行の妨げになる場所
ぶつかったり、接触してけがや破損の原因とな
ります。
◇直射日光の当たる場所、熱器具の付近
や高温になる場所、湿気やホコリの多い
所
火災や感電、故障の原因となります。
◇塩害や腐食性ガスが発生する場所
取付部が劣化し、落下によるけがや事故、故障
の原因となります。
◇可燃性ガスの雰囲気中
爆発によるけがの原因となります。

警告

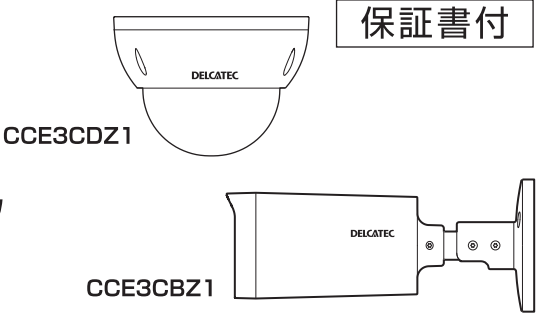
設置、点検時は次のことに
注意する
◇設置・配線・点検時は電源を切ってから行
なってください。
感電やショート・誤配線による火災の原因と
なります。
◇足場と安全を確保し、強風、雨、嵐、雪、霧
などの天候が悪い日や暗い所では、危険
ですから設置工事や点検をしないでく
ださい。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
◇本体や部品、工具類を落としたり、強い
衝撃を与えないでください。
けがや故障の原因となります。
◇ケーブル類は正しく配置してください。
引っ掛けると落下や転倒によるけがや故障の
原因となります。
◇組み立てや取り付けのネジやボルトは、
締め付け力(トルク)指定がある場合は
その力(トルク)で締め付け、堅固に固定
してください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
◇台風の後や積雪の後などは、取付装置に
緩みや異常が生じることがあります。
点検はお買い上げの販売店または工事店に
ご相談ください。そのままにすると破損して、
けがや故障の原因となります。
◇カメラや取付装置などに乗ったり、無理
な力を加えないでください。
落ちたりして、破損、けがの原因となります。

警告

結露した状態で使用しない
故障の原因となります。
電源を止め、結露がとれた後に電源供給し直し
てください。

注意

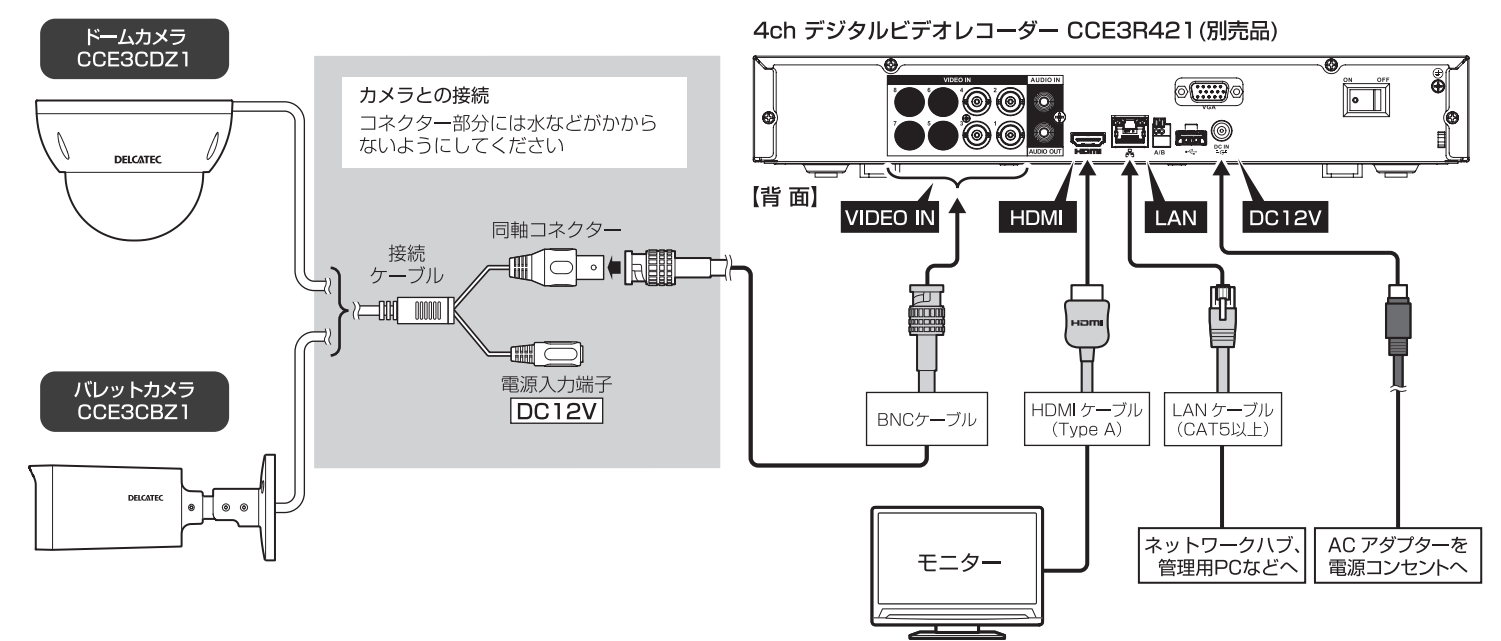
お手入れのご注意
本体の汚れは、市販のクリーナーや
ベンジン、アルコール、シンナーなどは使わ
ず、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
樹脂が溶けたり、変形したり、変質、変色す
ることがあります。



付属品

- 取付ネジ ×3本
- コンクリートアンカー ×3本
- 取扱説明書 ×1部
- トルクスレンチ ×1本

■接続のしかた（接続例）



■防水要件

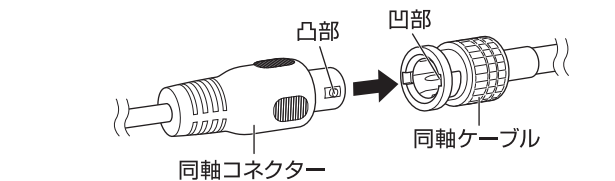
ケーブルは以下の手順で防水処理を行ってください。
不十分な防水処理が原因で装置が破損した場合は、使用者がそ
の一切の責任を負うものとします。

memo

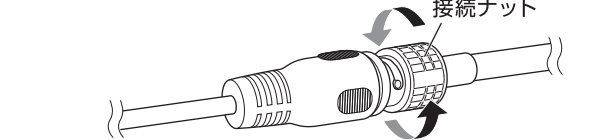
●はじめに、必要なケーブルをすべて接続します。
●防水粘着テープでケーブル末端部や接続部を保護してください。
電源入力端子・電源出力端子を使用しない場合は、各端子を防水
処理してください。

1 防水粘着テープでの保護のしかた

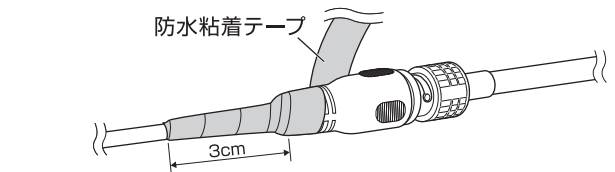
- 同軸コネクターの凸部を、同軸ケーブルの凹部に合わせて
奥まで差し込みます。



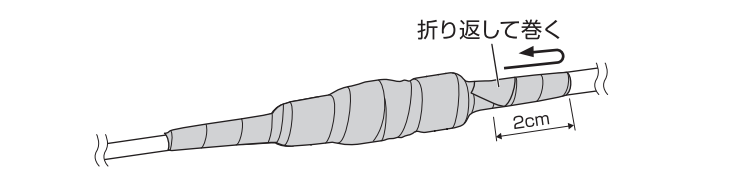
- 同軸ケーブルの接続ナットを矢印の方向に止まるまで回して
固定します。



- コネクターの末端から3cm程度手前のところから防水
粘着テープを巻き始めます。



- 反対側のコネクター末端から 3cm 程度のところまで巻き終
えたら、そこから約 2 cm 程度折り返して巻いてください。



- (オプション) 防水処理が完了したら、ケーブルを
防水ジャンクションボックス (別売) に入れます。

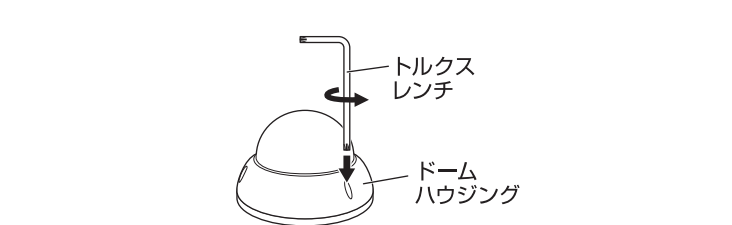
ご注意

●ケーブルコネクターは露出させず、水に触れないようにしてください。
●装置を取り外した後は元に戻して固定してください。
●電源アダプターを配電ボックスに入れてください。

■設置のしかた

1 (ドームカメラのみ) ドームハウジングをはずす

本機を設置するにはドームハウジングを開ける必要があります。
付属のトルクスレンチで下図位置の3本のネジを緩めて
本体からはずします。
※ネジはドームハウジングからはずれません。



2 カメラの設置

以下は壁面取り付け、または天井取り付けの場合の設置例です。
取り付け面に、カメラの重量を支える強度が十分にあることを確認してください。また、ドリル等の工具類は事前に用意してください。

天井取り付けの場合

1. カメラを取り付ける位置を決め、カメラを天井にあてがい、穴位置をマークします。

※必要に応じてベースの切り欠きにケーブルを通して配線してください。



2. マークした穴位置に、φ6～6.5mmのドリルで30mmの深さのガイド穴をあけます。

3. コンクリートアンカー3本をガイド穴に打ち込み、しっかりと固定されていることを確認します。

4. カメラを取り付けます。
天井とカメラのすべてのケーブルを接続し、ガイド穴に合わせて取付ネジ3本をドライバーで締めつけて、カメラを固定します。

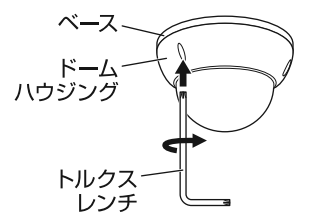
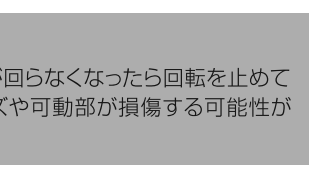
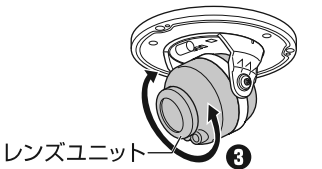
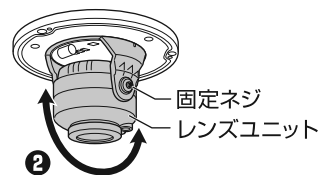
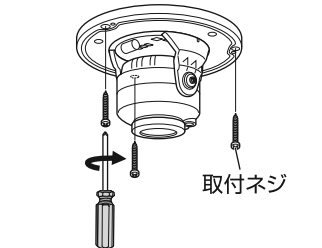
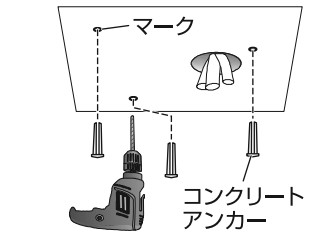
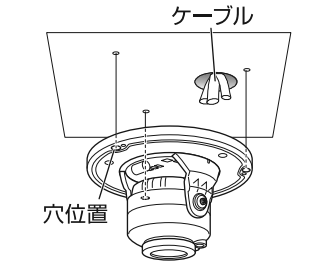
※必要に応じてベースの切り欠きにケーブルを通して配線してください。

5. レンズの方向を調整します。

水平方向に調整する場合は、レンズベース部分を回転させます(①)。

垂直方向に調整する場合は、左右の固定ネジを少し緩め、レンズユニット部の角度を調整します(②)。
調整後、緩めた固定ネジを締め付けてください。

映像の上下方向が正しくなるようレンズユニット部を回転させます(③)。



壁面取り付けの場合

1. 取り付け位置の中央付近に穴を開けて穴にケーブルを通したらベースを壁にあてがい、穴位置をマークします。

2. マークした穴位置に、φ6～6.5mmのドリルで30mmの深さのガイド穴をあけます。

3. コンクリートアンカー3本をガイド穴に打ち込み、しっかりと固定されていることを確認します。

4. カメラを壁面に取り付ける前に、右図3ヶ所の調節ネジをトルクスレンチで緩め、ネジで固定しやすいようにカメラの角度を調整します。

※詳細なカメラ角度の調整は、カメラ固定後、手順6でおこないます。

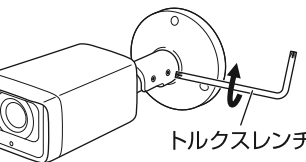
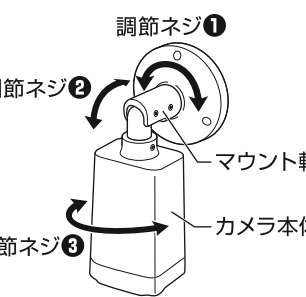
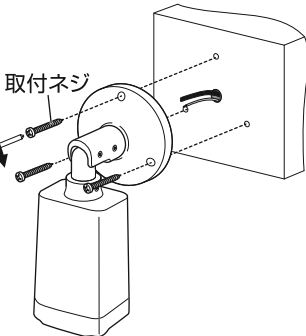
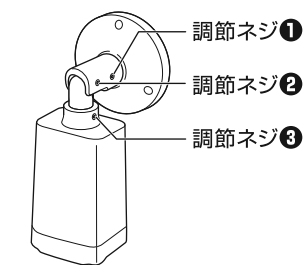
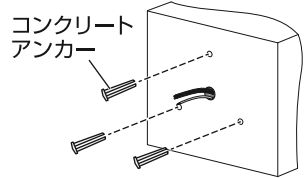
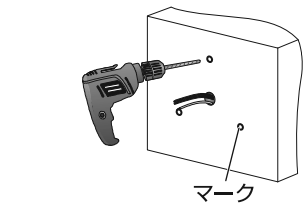
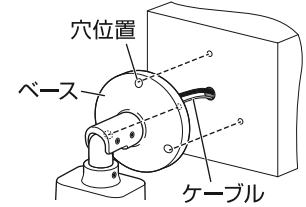
5. すべてのケーブルを接続し、カメラを壁面に取り付けます。
取り付け用の穴位置とベースの穴位置を合わせて、取付ネジ3本をドライバーで締めつけて固定します。

6. カメラの方向を調整します。

- 1) 調節ネジ①を緩めると、マウント軸を回転させることができます。
調節ネジ②を緩めると、カメラ本体の角度・方向を変えることができます。
調節ネジ③を緩めると、カメラ本体を回転させることができます。

- 2) カメラを目的の監視方向に向け、調整した角度や方向がずれないように注意しながら、各調節ネジをしっかりと締め付けます。

7. カメラの電源を入れ、画像を確認の上、角度や方向等を調整してください。

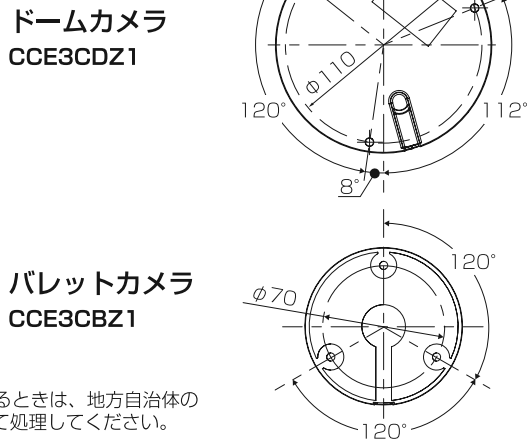


規格特性 (規格および仕様は改良により、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。)

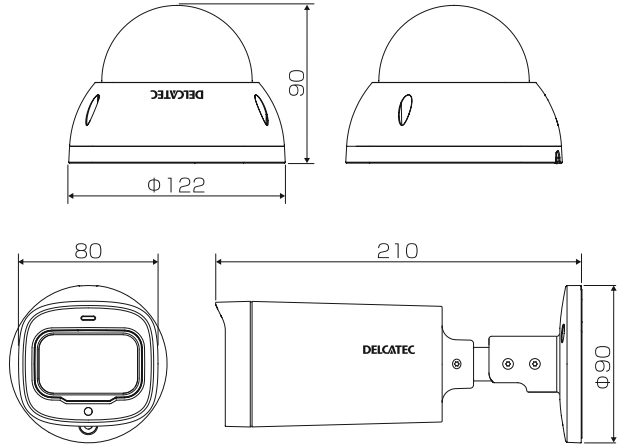
品名	電動可変焦点ドーム型同軸カメラ	電動可変焦点バレット型同軸カメラ
型番	CCE3CDZ1	CCE3CBZ1
撮像素子	1/2.8" CMOS	
有効画素数 (Pixel)	最大1920×1080	
最低被写体照度 (Lux)	赤外線LED OFF時：0.02(F1.7)、30IRE / 赤外線LED ON時：0	
シャッター速度 (s)	PAL:1/25～1/100000、NTSC:1/30～100000	
レンズ (mm)	2.7～12 (電動フォーカス、電動ズームレンズ)	
画角 (°)	102～33	
DAY&NIGHT	自動	
映像出力	最大1920×1080 (30)	
S / N 比 (dB)	65以上	
赤外線照射距離 (m)	最大 30	最大 60
防水/防塵性能 (保護等級)	IP67	
電源 (V)	DC 12 ±30% PoC	
消費電力 (W)	最大 5.2	最大 7.2
使用湿度範囲 (%RH)	0 ～ 90 (結露なきこと)	
使用温度範囲 (°C)	-30 ～ +60	
寸法 (mm)	φ122×90	90(H)×90(W)×210(D)
質量 (kg)	約0.44	約0.57

外形寸法図

(単位：mm)



※ この製品を処分するときは、地方自治体のルールにしたがって処理してください。



保証書 (2106-02-00)

■保証期間

製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書(レシート、納品書など)に記載されている購入日より1年間、本製品を本規定に従い無償修理をすることを保証いたします。※消耗品は除く

■無償修理

保証期間中、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店にお持ちいただくか、弊社修理センターに送付してください。弊社修理センターへご送付いただく場合の送料はお客様のご負担となります。また、ご送付いただく際、適切な梱包の上、紛失防止のため受渡の確認できる手段(宅配や簡易書留など)をご利用ください。尚、弊社は運送中の製品の破損、紛失については一切の責任を負いかねます。

■適用の除外

次のような場合には保証期間中でも有償修理となります。
①ご使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障および損傷。
②お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
③火災、地震、噴火、洪水、津波などの水害、落雷、その他の天変地異、戦争、暴動による破壊行為、公害、塩害、ガス害または、ねずみや昆虫、鳥などの動物の行為による損傷、指定以外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障および損傷。
④塗装の色あせなどの経年劣化や、使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
⑤用途以外(例えば車両、船舶への搭載など)に使用された場合の故障及び損傷。
⑥製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書(レシート、納品書など)を提示、添付されていない場合。
⑦保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い求めの販売店の記入がない場合、または字句を書き換えられた場合。
⑧譲渡品、転売品または中古品として本製品をご購入された場合。(リサイクルショップでの購入、オークション購入での中古品を含む)
⑨その他、無償修理または交換が認められない事由が発見された場合。

お買上年月日	ご販売店	ご住所・ご店名
年 月 日		
		電話() -

カスタマーセンター 0570-033-083

土・日・祝日もご利用ください!
DXアンテナ株式会社
6121-2

■受付時間 9：30～17：00 (夏季・年末年始休暇は除く)
■一部のIP電話で上記番号がご利用にならない場合：050-3818-9016

※全国一律料金でご利用いただけます。
※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。
※ナビダイヤルは各社音声通話定額サービスの対象外となっております。
(1908)
ホームページアドレス
<https://www.dxantenna.co.jp/>

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

本製品の詳細設定については、
下記のWEBサイトをご覧ください。
<https://www.dxantenna.co.jp/product/item/manualimg/CCE3CDZ1.pdf>



製品に関する
お困りごとを解決!
DXサポ!
DXアンテナ サポートポータル
スマートフォンで
各種設定方法が
わかる⇒
ホームページでも初期設定や、各種端末の詳しい手順を確認できます。
[1015] QRコードからアクセスしてください。



ご注意

- レンズベースやレンズユニットが回らなくなったら回転を止めてください。無理に動かすとレンズや可動部が損傷する可能性があります。